

平成28年度

学校関係者評価報告書

平成29年7月

筑波研究学園専門学校
学校関係者評価委員会

■平成28年度 学校関係者評価について

筑波研究学園専門学校では、平成20年度より自己点検・評価委員会を設置し、日頃の教育活動について自己点検・評価を実施してきました。また、平成25年度からは、企業及び業界団体や保護者、卒業生等で構成する学校関係者評価委員会を設置し、様々な立場を代表する委員の皆様から学校運営・教育活動実績報告書をもとにご議論いただき、本校の学校運営や教育活動に対して点検・評価していただいております。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の評価結果について報告します。

1. 実施日時・場所

平成29年7月13日(木) 12:00～14:30

筑波研究学園専門学校 6号館大講義室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員 ※50音順

青木 貞雄	一般財団法人総合科学研究機構理事
浅田 順	学校法人霞ヶ浦高等学校理事長
古森 貞弘	茨城県立牛久高校元校長 筑波研究学園専門学校第5代校長
齋藤 鐵哉	国立研究開発法人物質・材料研究機構名誉顧問 一般財団法人総合科学研究機構センター長
瀬尾 達朗	株式会社筑波銀行取締役本店営業部長
竹内 俊作	一般財団法人日本自動車研究所業務執行理事
辻 信行	ツジ電子株式会社取締役会長 一般財団法人茨城研究開発型企業交流協会名誉顧問
中山 和則	公益財団法人筑波メディカルセンター 筑波メディカルセンター病院副院長
羽澄 順二	株式会社つくば研究開発支援機構監査役 株式会社カスミ元取締役
平塚知真子	株式会社エデュケーションデザインラボ代表取締役 一般社団法人みらいウェブ推進協会理事長
堀内 敬王	TIST 建友会会長、鹿島市役所
増山 栄	五籃会会長、株式会社増山栄建築設計事務所代表取締役
安田 秀司	学校法人安田学園理事長、アカデミア幼稚園園長
渡邊 壽恵	学校法人温習塾つくば秀英高校元校長 筑波研究学園専門学校元副校長

○学校関係

柿崎 明人 学校法人筑波研究学園 理事長
筑波研究学園専門学校 校長

勝村 正巳 筑波研究学園専門学校 ものづくり学科長

高野 宏之 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学長

大野 克典 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長

水越 武 筑波研究学園専門学校 経営情報学科長

横瀬 和子 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長

大森 淳子 筑波研究学園専門学校 こども未来学科長

野口 孝之 学校法人筑波研究学園 法人企画部長
筑波研究学園専門学校 教務部長

田邊 寛 筑波研究学園専門学校 事務部長

赤羽根隆之 学校法人筑波研究学園 法人企画部顧問

志賀 宏 学校法人筑波研究学園 法人事務局長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3) 評価方法：平成28年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価

3. 評価の項目

次の10項目について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

(1) 次の4段階で点数評価

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項等を記載

5. その他

平成28年度 学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

項目1 教育理念・目標

評価：4.0

- ・学校の理念・目的・職業教育の特色、将来構想は明らかである。学生・保護者等への周知の点はTISTNETWORKのイラストも多く工夫されている。
- ・教育理念・目標などは設立当初より明確にされており、実践的な職業教育がなされている。また、社会経済ニュース等を踏まえた教育方針は折に触れて理事会、評議員会でも議論され、適正に設定されていると評価できる。
- ・産学協同のもと、実践的な職場教育を重視した課程に取り組んでいる。時代に応じた学科の編成にも対応し、職場教育の拡充を図っている。
- ・業界ニーズを把握し、将来構想におとしこむことは、大変困難な作業の為、情報収集のネットワークの確保・強化などの工夫が大切である。
- ・設立の理念（産学協同）の趣旨とした教育目標、方針は明確である。そのためにも教職員がより理解し、それに向けて日々の教育活動を周知していきたい。
- ・授業時間数確保の観点から、前期終業式と後期始業式間の休業日を有効活用することも一つである。

項目2 学校運営

評価：3.6

- ・運営方針の策定及び教務や財務などに関する意思決定システムは、評議員会や理事会での審議、承認を含めて適切である。
- ・学校運営については、理事会の承認のもと適切に運営されているが、その方針等の教職員への周知が不十分であることに對し、引き続き改善を図ることが望ましい。
- ・TIST組織の「運営方針」「事業計画」「情報公開」は適切であるが、「諸会議」「各種規程」など教職員との意思疎通に要改善を指摘されている。
- ・平成27年度も運営方針、事業計画、運営組織等で指摘されてきたが、今年もより一層教職員に全学科の特色を意識させて学校運営に当たっていただきたい。
- ・さまざまな規則、規定の整備に関しては、十分な対処がなされていると判断できる。しかし、以前から本評価委員会でも指摘されてきたように、教職員への周知については今後とも一層の努力が必要である。
- ・規定等は年1回程度、研修会等を通じて周知する必要がある。

項目3 教育活動

評価：3.8

- ・全学科が職業実践専門課程にそったカリキュラムが明確である。各学科の特色をより鮮明にPRしていければ思う。
- ・実践的な職業教育の充実に向けて絶えず努力している姿勢がみられ、高く評価できる。しかし、関連分野の企業等や業界団体との連携によるカリキュラムの見直し等については、学科によって取り組みにばらつきがあるように見られ、学校全体として一層の充実を期待したい。
- ・「教育理念」「教育課程」「学習時間確保」「評価」体制は充実。一方教職員の専門性、先端的知識技能研修、学生指導に関して要改善の指摘がある。
- ・教職員の資質向上に対する取り組みについては前向きな姿勢がみられ評価できる。学科の特

性によっては難しい場合も考えられるが、関連分野の企業等や業界団体との連携による教職員の自己研修に一層の努力を期待する。

- ・「キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム」の実践に向け、教職員への徹底が重要である。
- ・教員及び学科の教育実績について経時的な定量化を図ってはどうか。
- ・単位の計算は45時間を持って1単位と定めているが、講義・演習の自宅学習（講義は自宅学習2時間、演習は自宅学習1時間）はどのような方法で認定されるのか説明が必要である。

項目4 学修成果

評価：3.6

- ・学校全体として学修成果を高める努力が感じられ評価したい。就職率の維持、向上あるいは資格取得率の向上は本校にとって最重要課題であるとの認識のもと、今後とも最大限の努力を期待する。
- ・進学・就職希望者に対する進路決定率は100%であり、退学率も改善されている。
- ・全体的に退学者減少は先生方の努力の成果だと思う。できれば、在校生に全学科卒業生の企業紹介を通し、就活指導の徹底を期していただければと思う。
- ・「就職率」「資格取得」に努力の足跡は評価できる。「退学率」の低減に要改善。また卒業後の「キャリア形成」効果の把握には抽出調査はどうか。
- ・卒業生やその就職先企業からの意見聴取、それによる教育内容の改善の手法は、それぞれの学科の特性もあると思うが、学校全体で実行できるようシステム化を検討する必要がある。
- ・学生の学修成長過程の定量化を試み、自立的な成長を促してはどうか。

項目5 学生支援

評価：4.0

- ・学生への進路・就職支援のほか、卒業生に対するキャリアアップの支援活動も活発であり、充実した体制は評価できる。
- ・「進路指導」「経済支援」「課外活動」「生活環境支援」「保護者との連携」「キャリア教育の連携」に最大限の努力をしている。
- ・進路・就職指導、健康管理、生活環境、学生相談の対する支援体制は、専修学校設置基準に沿って十分に整備されていると認識している。
- ・学生の支援体制対応はよくなされていると思う。要は各学科の担任間の意思疎通が大事で今後もより一層の努力を期待していきたい。
- ・学生支援、特にメンタル面での問題を抱える学生には関係者間で十分な連携を取りながら対応できるよう一層の努力を期待したい。

項目6 教育環境

評価：3.7

- ・専門学校としてのキャンパスの充実・施設・設備等の教育環境は素晴らしく、この点も積極的にPRしていきたい。
- ・専門教育に要する施設・設備については全般的に大きな問題はなく、整備に努力がみられる。

将来的には構内全域にわたるバリアフリー化の推進が期待される。

- ・充実した環境を維持するとともに、必要に応じ整備する計画も長期的に構築願いたい。
- ・法人としては指定基準に従い努力しているが一方経年劣化や予算施行の問題も挙げられる。インターンシップには学内外の課題がある。
- ・施設設備の更新は必要であろう。
- ・整備されている防災マニュアルは教職員への周知徹底に努めるとともに、毎年開催される全学避難訓練の際などに情報共有を図ってほしい。

項目 7 学生の受け入れ募集

評価：3.5

- ・学納金等の徴収金額はすべて明示しており適切であり、入学辞退者の授業料返還についても適切に取り扱われていると判断できる。
- ・努力は図られているが、現状は厳しい。TIST 理念を重視しつつ志願者の時代感覚や興味関心・程度に沿った広報活動の工夫が必須。
- ・学生募集に関する基本的な流れは整備されていると感じるが、昨今の競合校などにおける入試戦略等を収集・分析し、必要に応じて対応策を検討する必要がある。
- ・入学者が減少している学科については、その要因を分析し検証するとともに、対策を検討する必要がある。
- ・平成 29 年度入学生は若干減少した。この原因を検証し、全学科あげて更なる入学募集活動に取り組んでもらいたい。

項目 8 財務

評価：3.4

- ・予算・収支計画の策定は評議員会、理事会での審議を経て適切に行われている。また、会計処理その他の学校会計全般についても公認会計士の指導のもと適切に処理されていると評価する。
- ・財務状況に大きな問題はないが、財務基盤の確立・安定のために、学生数の確保と経費削減の両面で、今後ともにさらなる努力を期待したい。
- ・N-TACの吸収による支出の増が財務状況を圧迫しており、現在では万全とは言い難いのではなかろうか。
- ・少子化の中で、専門学校間の競合も厳しいものがあるが、経営安定化を図る意味からも財務体質の強化は極めて大切であろう。
- ・平成 28 年度の収支が赤字となったことは残念である。緊張感を持って収支改善したい。
- ・平成 28 年度の収支がマイナスとなったことを踏まえ、安定した学生の確保と適切な経費削減を継続することが重要である。
- ・入学生確保への努力が「財務」の基本、一方拡大している支出項目の見直しが必要か。

項目 9 法令等の遵守

評価：3.8

- ・学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準をはじめとする関係法令に基づいて、適切な運営がなされていると評価できる。
- ・適切に運営されており、引き続きコンプライアンス遵守に取り組まれない。
- ・コンプライアンスは今日的課題。個人情報保護対策、法人の将来的見地からも問題点の改善は見逃せない。
- ・個人情報保護等を含め、情報等の管理を教職員に徹底していくことが大切なことであろう。
- ・情報公開に関しても問題は認められないが、個人情報の取り扱いについては、講習会や研修会などにより、関係者のモラル維持・向上を促す機会を持つことが必要であろう。

項目 10 社会貢献・地域貢献

評価：3.9

- ・学生のボランティア活動の支援体制の整備は評価できる。
- ・学校施設の開放や公開講座等も適切に行われていると評価する。
- ・ボランティア活動を通じた学生育成に、引き続き取り組むことを期待する。
- ・地域社会から信頼される専門学校としてより一層広がった専門学校として魅力あるものにしていきたい。
- ・入学生確保を目標に地域への広報活動を兼ね、焦点を絞った社会貢献・地域貢献を重視することはどうか。